

くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会

〒440-0055 愛知県豊橋市前畑町 112 ☎0532-54-3435

ホームページ <https://azumada.org/> 武井恵一牧師 080-3428-3200

2019年

8月号

8月18日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供

8月11日 聖霊降臨節第十主日礼拝説教

「生きた言葉によって」武井 恵一牧師

ペトロの手紙一 1章20～25節 新約聖書429頁

ペトロの手紙一 1章20～25節

²⁰キリストは、天地創造の前からあらかじめ知られていましたが、この終わりの時代に、あなたがたのために現れてくださいました。²¹あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。²²あなたがたは、真理を受け入れて、魂を清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、清い心で深く愛し合いなさい。²³あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生きた言葉によって新たに生まれたのです。²⁴こう言われているからです。

「人は皆、草のようで、その華やかさはすべて、草の花のようだ。草は枯れ、花は散る。

²⁵しかし、主の言葉は永遠に変わることがない。」これこそ、あなたがたに福音として告げ知らされた言葉なのです。

皆さんが良くご存知のように、1章20節の言葉はヨハネによる福音書の最初の言葉を言っています。

使徒ペトロも「ヨハネによる福音書」を読んでいた。これは、もちろん推測ですが、ヨハネによる福音書が紀元90年から100年頃世に出されたこととされていることから、あるいは、出版されるより早くヨハネから送られ、読んでいたと思われる。



もし、そうならば、使徒ペトロがどれほど喜んでヨハネの草稿を読んで心を弾ませたかを思い、「よかった！」と心から感謝いたします。

それに並んで、この「ペトロの手紙」が、ローマ帝国支配下の——ユダヤ戦争(対ローマ帝国)の中にあって、また、ユダヤが徹底的に敗北し、大多数のユダヤ・イスラエル人が国外追放・強制的退去を強いられながら、トルコなど地中海沿岸の国々に移り、そこからプロテスタント・キリスト教の福音を迫害の中で進めていった歴史の事実を、心を燃え上がらせます。

ペトロは20節で「この終わりの時代に」と、福音宣教が人間世界全体をどう守りきるのか、単なる希望と願望としてではなく、実際にこの福音の灯が地中海をはさむローマ帝国各地に蒔かれ、芽を出し、育ちつつある有様を見て、体と霊とによってこれを知り、息が詰まるような思いで各地の生まれて間もない教会に便りをしたためていた。

ペトロの手紙はその心が伝わってきます。21節はペトロの思い、必死とさえ言える思いが表れています。

ペトロの手紙— 1章21節

²¹あなたがたは、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなたがたの信仰と希望とは神にかかっているのです。

この、混乱しているペトロの言葉を、もう一度読んで、ペトロの心を深く掘り下げ、ペトロの心を掘り起こし、あなたの心で受けとめてください。



こともあろうに、ペトロはここで「神を『キリストによって信じています』と断言」しました。「父なる神」と「キリスト」。恐れ多いことですが、ペトロはここで明確に「主・客」を転倒しました。どうして、このようなとんでもないことを、未だかつて行われたことのない主客転倒を、「正典」である聖書においてあからさまにあらわしたのか。

21世紀の今日、2019年8月11日現在、新約聖書は、ペトロの驚くべき主客転倒の言葉を、そのまま「正典」の言葉として世に出されています。

主イエス・キリストの弟子、十二使徒の代表として、あのペンテコステの説教を「敵対し、主イエス・キリストの十字架の死を実現させた、ファリサイ派を中心とするエルサレム神殿ユダヤ教上層の人々に対して」、空の下で、大声で説教したペトロ。

スピーカーも、マイクも無しに、全力をもって、「敵対」ではなく、「喜び、あふれる喜び」を全身であらわしたペトロ。

しかも、主イエスを殺し、その責任を指摘し、とがめられてあたりまえであるのに、主イエスが三日目の日曜日に、神様によって復活した喜びを、全身で喜び、この復活に共に与ろうと絶叫したペトロ・・・わたしは神様を信じる信徒また牧師として、ペトロにとって主イエスの復活がそれほどまで大きかった、と理解いたします。

以下の新共同訳聖書の言葉は、ペトロが先に訪問した、あるいは開拓伝道に参加したトルコやギリシアでの生まれたての教会——ユダヤ教信徒もいる、家庭的なシナゴグ教会に、このペンテコステ説教の言葉を送ったことは確かだと覚えるので引用します。

使徒言行録2章22～24節

²²イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証

明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおります。²³このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまっただけです。²⁴しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。

どうして、この聖書箇所がペトロによって地中海沿岸の出来たばかりの教会に送られたことは確かと言えるか。何か資料があるのか？

様々なキリスト教神学の出版物があり、多分その研究所もあるでしょうが、英語・ドイツ語が中心です。残念ながら手がとどきません。

聖書以外の資料をここでは用いていません。多分、様々な具体的な資料は必ずあると確信します。ここで引用した言葉は、それらの資料の原点として参照され、より広くユダヤ人社会・シナゴグ・キリスト教開拓教会に送られたと確信します。

トルコやギリシアなど、だけではなく、海外に強制移住させられたユダヤ人は、ほとんどその全てが、かつてユダヤ教と関係していたはずで

それは、ユダヤ・イスラエルの民族全体の最も太い柱です。そして、紀元70年、ヘロデが再建したエルサレム神殿は、ユダヤからの反乱でローマ帝国軍によって破壊され、再建の計画は聞いていません。

イエス・キリストの福音・宣教活動以前はどこへ行っても、旧約聖書の言葉は、ユダヤ・イスラエルの最も大切な正典であり、また、生活に密着したものです。

けれど、紀元前4年、イエス・キリストが聖霊によってマリアから誕生し、主イエス自身が30歳に達した頃、「神によるイエス・キリストの福音」宣教が開始されて以来、ユダヤ・イスラエルは主イエスを信じるキリスト者が増え、ペンテ

コステ聖霊降臨によって、教会が誕生し、世界全体のキリスト教になり、現在も福音宣教は積極的にすすめられています。

唯一神を固く信じるユダヤ教。ここから、三位一体の神によってキリスト教は、全き人間であり、全き神である主イエス・キリストによって、キリスト教として立てられました。

マリアから誕生したイエスは、「神から遣わされた、神の独り子・キリスト(救世主)」として、また、同時に「真実の神は、イエス・キリストの父なる神、イエス・キリスト、聖霊なる三位一体の神」として公に、人間が存在する全宇宙に出現されました。

わたしたちキリストを信じる者は、神様による人間の復活を信じます。

神様が「愛である」真理を信じ、わたしたちも「愛として」永遠の命に生かされることを信じます。また、わたしたちはいつの日か、三位一体の神をすべての人間が実際の「唯一の真実の神」として信じるに至ることを確信いたします。

祈り 讃美歌(21) 497「この世のつとめ」



聖書の言葉はすべて以下から引用しています。
聖書 新共同訳：
(c) 共同訳聖書実行委員会
Executive Committee of The Common Bible Translation
(c) 日本聖書協会
Japan Bible Society , Tokyo 1987,1988